

## トランプと渡り合う間もなく

# 来春には「石破では戦えぬ」噴出か

### 5分會談で「フレンドリー」と喜ぶ石破首相

米国の大統領領選はトランプ氏が過半数の270人を大きく上回る選挙人を獲得して次期大統領に決まり、来年1月に就任します。そのトランプ氏と「電話會談」をした石破首相は「フレンドリーな感じ」とコメントしました。わずか「5分」というのも気になります。トランプ氏はフロリダで当選祝いのパーティの最中でした。お祝いの最中に相手が難題を持ち



衆院本會議で居眠りをしたと指摘された石破首相。(読売オンラインから引用)

出すわけがありません。我が国の宰相はトランプ大統領と渡り合えるのかと多くの人が不安を感じたことでしょう。来年7月には参院選があり、3月末に予算案が通過したら、党内にたまったマグマが一気に吹き出すに違いありません。

### ハリス氏の行き過ぎたリベラル政策による「自滅」か

トランプ氏の最大の勝因は、民主党の経済政策に不満を持つ白人労働者や有色人種の票を増やしたことにあると言われます。だが、ハリス氏の主張するジェンダリズムなどの左派思想が、これまでにトランプ氏の激しい言動に眉をひそめてきた民主党中道派や無党派層、さらにはアフリカ系やヒスパニック移民を、トランプ支持に追いやったのではないかという「自滅」論も無視できません。

とりわけ移民の多くは敬虔なキリスト教徒だと言われますから納得できません。ハリス氏こそが社会の分断を生み、トランプ氏がこれを統合したというわけですが、上院議員時代のハリス氏は、大麻・売春の合法化や死刑廃止を掲げ、妊娠中絶を制限する州に對する司法省の介入を求めたほか、「(不法移民を)犯罪者として扱うべきではない」とも発言しています。

### トランプ勝利で「LGBT法」の二の舞は避けられた!?

そんなハリス氏を副大統領に据えたバイデン大統領ですが、民主党内の力学もあって国内政治では「疑似サンダース政権」と言ってもおかしくない政策を続けました。影響は日本にも及び、昨年の広島サミットを前に、駐日大使らを使って「LGBT法」を押しつけたのは記憶に新しいところ。バイデン氏が大統領選で勝ち目がなくなると民主党左派が担いだのがハリス氏ですが、今回の結果で、少なくとも米国左派の価値観が日本に持ち込まれる

### 「目の黒いうちは改憲させない」と言った石破首相

「目の黒いうちは改憲させない」と言った石破首相。翻って我が国はどうか。安倍政権時代のある地方選挙で石破氏を車で送迎したという関係者から、こんな話を聞いたことがあります。「私の目の黒いうちは憲法は変えさせない」と携帯電話で地元の支援者に話していたというのです。彼の本性を示すような

証言ですが、それでも立場が変われば変節を厭わず生き延びようとす

るのが石破流です。11日の首班指名の決選投票の最中には、自席で眠り込む影像や写真がテレビや新聞で大寫しになりました。風邪薬で眠りなくなったと林官房長官はフォローしましたが、それが本当なら自己管理が全くできていないということになります。近くに座る麻生太郎元首相が首をかしげる姿が印象的でした。

### 「高市案」で選択的夫婦別姓に對抗を

## 法務委員長ポストを握った立憲に最大限の警戒を!

自民党は衆院での予算委員長(安住淳氏)や憲法審査会会長(枝野幸男氏)のほか、法務委員長(西村智恵)のポストまで立憲に譲り渡しました。野田佳彦代表は過去に野党が議員立法として提出した「選択的夫婦別姓」の民法改正案を提出すると明言。法務委員会に負託されれば、自民党内の別姓派を引

き込んで採択される恐れがあります。これに對抗するには、11月1日発行の「59号」で述べたように、高市早苗衆院議員がかつて自民党の法務部会に提出した「婚姻前の氏の通称使用に関する法律案」を議員立法案として提出するしかありません。今後、保守派が団結して行動することが求められます。